

友

SUPPORTERS CLUB NEWS

友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501
青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94
七戸町立鷹山宇一記念美術館内
鷹山宇一記念美術館友の会

TEL.0176-62-5858 FAX.0176-62-5860
e-mail.takayama-museum@town.shichinohe.aomori.jp



『お栗の水産台風景』



『八の内三葵赤レンガ街景』

鷹山宇一 紙・パステル 1955(s30)年【個人所蔵】

● ミュージアム・コレクションから ● 鷹山宇一 『お栗の水産台風景』『八の内三葵赤レンガ街景』 ●

「若い時から売り絵作家だった私は、自分の研鑽の場として50代までの間、何千枚ものデッサンを描き続けて参りました。仕事の合間をみては写生をしたり、素描をしたり、の繰り返しでした。昆虫や植物も本物を見て描き続けたために様々なものを観察する訓練ができたお陰でしょうか、私はへ花と蝶を描く作家になりました。」

1998年東京国際美術館(東京都・多摩市)において「鷹山宇一 卅寿記念展」が開催された。右は、画家90才と個展開催を祝したパーティー「茶話会」での鷹山の挨拶から抜粋したものである。70余年にも及ぶ長い画業を振り返るが如く、初期からの作品が展示された会場には、鷹山の生涯で初公開となるデッサンたちがあった。

「若い時の力はいつまでも続くものではない。40、50の時、再度デッサンを研鑽することで、その力が死ぬまで血となり肉となる」と、誰に見せるわけでもなく、自らの強い意志のもとアトリエの奥深くにひっそりと保管されていた。しかし、公開されたデッサンとはいうと、「研鑽の場」に留まらず見事な存在感をもつていて、作品としての完成度が高いものばかりであった。

パステルで試みられたこの2作品には、鷹山の油彩画に表現されている独特の叙情性がすでに漂っている。紙質やパステルの持ち味を熟知し、これを巧みに活かし、幻想的な雰囲気を一層高めている。実在する日本の風景であるのに、どこかヨーロッパの香りのする、それはまるで異国の風景のようだ。画家の心象とが融合した風景デッサン、とても見えようか。見る者を鷹山宇一の幻想世界へと静かに誘う。

7月23日まで、そのデッサンの一部を、鷹山宇一記念美術館で展示中。是非ご覧ください。

(学芸員 大池 亜希子)

平成18年度総会開催

新会長に

盛田駿造理事

さらなる発展に期待

平成18年6月10日友の会平成18年度通常総会が開催され、別添のとおり提案した全議案が原案通り承認されました。その後役員改選では理事2名、監事1名が交代し、6月15日開催の役員会において、山本洋一会長が勇退し、新会長に盛田駿造理事が選任されました。長い間役員を務められた皆様、ありがとうございます。今後とも友の会の活動にお力添えをお願いします。



会長就任にあたって

友の会の発足は平成六年十一月です。今年の十一月で満十二年となります。十二支を一巡した今年、創立来会長を務め、友の会の基盤を強固なものに創って参りました山本会長が退任し、替わって不肖盛田が会長に選ばれました。

美術館は平成十八年度から指定管理者となり、より一層企画展示等の充実と経営の効率化を求められております。

友の会は、会員と美術館が今まで以上に緊密な関係であるように努めて参ります。第一番目に会報の充実に努めます。第二番目にボランティア活動の充実です。会員の皆様がお気軽に参加でき、しかも参加したことによって美術館との絆を強いものになりたいと思います。第三番目に研修旅行の充実を図って参ります。第四番目に学芸員に協力して「画家・鷹山宇一」の研究に協力して参りたいと思っております。これらのことを確実に実現するためには、会員の増強が大切であります。

会員の皆様には、今まで以上に協力ご支援を頂きたく、よろしくお願ひ申し上げ、就任のご挨拶と致します。

平成十八年六月吉日

鷹山宇一記念美術館友の会 会長 盛田 駿造

十二年を振り返って

平成18年度定時総会後開催された役員会において、盛田新会長以下新執行部が発足いたしました。文字どおり浅学非才の私が曲がりなりにも会長職を務めてこられましたのは、会員・役員の皆様のご指導ご鞭撻によるものであり、退任にあたり心より御礼申し上げます。

思えば、我が鷹山宇一記念美術館友の会の設立総会は平成6年の11月19日に中央公民館集会室（現・南公民館）で開催され、設立発起人代表でありました私が会長に選任をいただきました。

以来12年間、会員へのサービスの会員の相互学習・美術館への協力を会の目的として、当初は全く手探りの状態で会員の皆様とともに生涯学習活動に取り組んでまいりました。初年度186名（総会後の申込みを含め2003名）で発足した会は、今年度は会員数400名を越え、不定期な発行でありました会報はカラー図版を入れた堂々たる定期の刊行物となりました。

また、定期的な研修旅行や美術館の事業へのボランティア協力なども



山本洋一前会長、12年間ありがとうございました。

継続的に実施されております。中でも美術館に対する入館料相当額の助成や鷹山先生の作品購入のための指定寄付などの物的な支援は、累積すると個人では考えられないような規模となっております。ひとえに皆様のご理解とご協力のたまものであり、まことに感無量のものがあります。

私にとつて最も印象的な事業は、なんとと言っても平成12年に実施した最初の海外研修事業である「設立5周年記念、スペイン・パリ美術紀行」でありました。

この研修旅行に参加された二科会青森県支部会員の高橋美津子さんの作品が高く評価され、平成15年開催の「第88回二科展」において「パリ賞」を受賞、平成16年には「二科会会友」に推挙されました。

先日、友の会の総会に出席された高橋さんが、「あの旅行でスペインの芸術風土に深く感銘を受けたことがひとつの転機となった」と挨拶されましたことに、会の事業に携わった意義を感ずることができ、とても嬉しい思いをいたしました。

盛田新会長のご指導のもと友の会の事業が今後ともこのように意義あるものとなりますよう、私も一会員として協力を惜しまないつもりです。長い間お世話になり、ありがとうございます。

平成十八年六月吉日

鷹山宇一記念美術館友の会 理事 山本 洋一



鷹山宇一記念美術館 特別展

ねえ、おぼえている？
この絵本を描いた
「あんの・みつまさ」を
津和野町立安野光雅美術館コレクション
安野光雅の世界展
旅する画家 in 七戸

7月30日(日)
↓
10月9日(月・祝)
会期中は無休

●入館時間●
10:00~17:30
(閉館は18:00)
※但し8月1日(火)は
15:00閉館
(入館は14:30迄)

●入館料●
一般/850(650)円
学生/400(320)円
小中学生/200(160)円
※就学前の幼児は無料。但し小学3年生以下のお子様は大人の同伴が必要。
※()内は前売券及び20名様以上の団体、県民加ッ受講者、JAF会員割引料金。
※前売券は「サークルKサンクス」県内各店にてお求めいただけます。

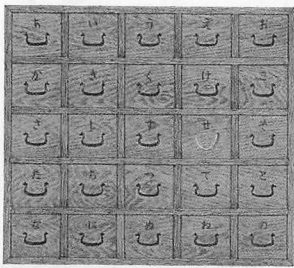
国際的な絵本作家としても著名な画家・安野光雅氏の、原色や派手な色をほとんど使わない淡い色調の水彩画は、細部まで描き込まれながらも落ち着いたやさしい雰囲気漂う作品で、多くの人々を魅了しています。その制作意欲は衰えることなく、折々に国内外を旅されて叙情性あふれる風景画を描くなど、80才を迎える今日も画家、絵本作家、エッセイストなど幅広く活躍されています。

2001年には故郷の島根県津和野町に町立安野光雅美術館が開館し、多くのファンが訪れ、安野芸術に一層親しむことができるようになりました。

本展は、安野光雅美術館所蔵作品から、彼の原点である絵本の原画を中心に



あいうえおの本



●出品作品●左の図版にある絵本原画ほか「歌の風景」、特別出品として司馬遼太郎が週刊朝日に連載をした「街道をゆく」のスケッチ集より青森ゆかりの風景原画、全80作品で構成予定です。

にこれまでの画業を振り返り、その一端を紹介しようというものです。
好奇心と想像力、そして遊び心から産み出された独創性あふれる数々の作品は、観る者の想像をかき立て、わたしたちを心の世界へと誘います。
本展を通じて、安野光雅の多彩な魅力に触れ、子どもから大人まで広く親しんでいただける「安野光雅の世界」を、親子で、ご家族で、ぜひご満喫いただけましたら望外の幸いに存じます。

安野光雅・森ミドリの夕べ

トーク&チェレスタコンサート

●日 時/平成18年8月1日(火)
午後6時開場、6時30分開演
●会 場/鷹山宇一記念美術館
●入場料/一席 3,000円
※120席限定、中学生以上の方が対象です。
※チケットは7月11日(火)から鷹山宇一記念美術館において販売いたします。
※売切次第販売を終了します。
※「安野光雅の世界展」観覧チケット付き。コンサート当日に限らず、10月9日(月・祝)までの会期中、ご都合の良い日にご観覧いただけます。

●森ミドリ氏のご紹介● 名古屋市に生まれる。幼いころからヴァイオリンとピアノに親しみ、作曲をはじめ。東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、及び同大学院修士課程修了。在学中に安宅賞を受賞。在学中からテレビ、ラジオなどで作曲・演奏・司会で幅広く活動。NHK「N響アワー」や「趣味の園芸」の司会でも知られる。現在は、ピアノ、チェレスタによる即興演奏を交えたトークコンサートを全国で行っている。2003年、5枚組のCD「チェレスタはゆりかご」を発売。2004年、CD付エッセイ集「花のエチュード」(北星堂書店)を発売。2005年には『雲の歌 風の曲』(岩崎書店、絵・詩:安野光雅)で作曲を担当。【略歴は森ミドリ公式サイトから】

箱根・芦ノ湖 成川美術館コレクション 花消遙々四季折々の花たち展 から

東奥日報社を共催に迎え、4月23日から6月4日まで開催した本展は、お陰様をもちまして、7,014人もの多くのお客様にご来館をいただきました。箱根・芦ノ湖 成川美術館が収蔵する作品をお借りして、大家から新鋭気鋭まで、現代日本画壇を代表する作家の最高傑作を一堂にご鑑賞いただける絶好の機会となりました。

本展へは、一昨年春ご好評をいただいた「さくら桜展」以来のリーダーのお客様、成川美術館、そして日本画の熱烈なファンも多く、また、私たち日本人にとって「花」は日常生活で身近な「美しき」存在なのではないでしょうか。「花」を通じて美術への興味、造詣を一層深められた観覧者も多かったようです。

友の会会員の皆様におかれましては、今回の「四季折々の花たち展」を十分にご満喫いただけましたでしょうか？美術館に出現した様々な芸術家たちによる「花」の散歩道をゆったりとご散策いただけましたでしょうか？

会期中は友の会をはじめ、茶道裏千家七戸会、七戸町文化協会、県立七戸高等学校をはじめとする団体・個人からお力添えを賜り、開催式やお呈茶、監視ボランティア活動等、本展事業にご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

5/22(土)開催式・テープカット、内覧会の様子から



▲「四季折々の花たち展」の開幕を祝いテープカット、特別内覧会を行いました。テープカットには、写真右から、作品の運搬・展示等でご協力をいただいた東京マルイ美術社長・吉川恒生氏、七戸町議会議長・中村正彦氏、七戸町長・福士孝衛氏、共催の東奥日報社から事業局長・平川正敏氏、当館名誉館長・鷹山増子、当財団理事長・青山浄晃にご参加いただきました。



本展のボランティア活動にご協力いただきました

▲43日間の会期中、七戸町民を中心とした延べ124名の方々が、作品とお客様の安全を保守・監視するボランティア活動、開催式運営にご協力くださいました。

5/7(日) 茶道裏千家七戸会によるお呈茶のサービス



▲▶ご来館のお客様にホッと安らぎの一時をご提供下さいました。



5/14(日) 七戸町商工会女性部企画・主催による「七戸つじまつり観光ツアー」参加者60名様ご来館



▶他市町村の方々に、「七戸町の歴史と文化に触れ、一日を楽しんでいただきたい」と、七戸町商工会女性部が企画。天王神社の「つじ」の花が見頃となるこの日にあわせ、当美術館ほか町内の見所を一日ゆったりと専用バスで巡る、お花見弁当つきのツアーです。二班に分かれ午前・午後と交代でご観覧いただきました。当館でも県内外からのお客様の声を聞くにつけ、見所がたくさんある七戸町ならば尚更のこと「こんなツアーがあったら素敵なのに…」と思っていた矢先の企画。是非また実施していただきたいと思えます。写真は、ツアー参加の方々へ館長の鷹山ひばりから歓迎の挨拶と館内の説明をしている様子です。一日を七戸町で過ごすツアー、大変好評だったようです。

■会期中の(土)当美術館を会場に「女性フォーラム」を開催

NPO法人青い森空間創造女性会議(北村真夕美理事長)が主催する『地方からの「幸福づくり」女性フォーラム』が、「四季折々の花たち展」の作品たちに囲まれて、6月3日開催されました。『やりがいや生きがいを創り上げていくために今、なくてはならない「青森の道」として、上北道路の早期完成を女性の視点から訴えるフォーラムです。

上北道路は、みちのく有料道路と第二みちのく有料道路をつなぐ26km。人口20万人以上の都市間で高規格道路がないのは全国で八戸ー青森間のみで、全面開通の見通しはまだ立っていないという現状です。

フォーラムでは、鈴木克宗国土交通省道路局国道・防災課長が「日本のみちづくり」と題して講話。続いて行われたパネルディスカッションでは、日本銀行青森支店長の清水紀男氏、青森市民病院副院長・脳神経外科部長



▲上北道路の早期全面開通へ向け前向きな姿勢を示した鈴木国道・防災課長



▲パネリストの皆さんと主催者の北村真夕美氏(中央)

▲左から鈴木克宗国道・防災課長、三村申吾青森県知事、小林真八戸市長



▲当日は町内外から地域の女性を中心に約200人が参加しました

の畑山徹氏、田名部高校教諭の千葉栄美氏、八戸市観光課長の風張知子氏の4名が意見交換をし、青森県の経済・医療教育・観光それぞれの視点から、上北道路の必要性を訴えました。

子どもたちのための
ワークショップから
Report!!

●○○●●●●●●●●

いちょうこらぶ
あ〜と!こらぶ

■「美術館いちょうこらぶ」

このものづくり教室は、昨年度より3カ年、青い森ファンド(公益信託 青森県ポランティア基金)からの助成金交付を受けて月1〜2回開催しています。七戸町倉岡の「大銀南木」を主題とし、美術・芸術に触れながら子どもたちの豊かな感性を地域の風土・土壌から育もうというものです。早いものでこの教室を開催してから1年が過ぎました。昨年度は、県南地区にある法量のイチヨウ(旧十和田湖町)、根岸のイチヨウ(旧百石町)、倉岡の大銀南木(七戸町)の3本の巨樹を見学することから始まりました。その大きさと威厳に圧倒されて、みんな無口になったことを鮮明に覚えています。今年度もひきつづぎイチヨウに関わりながら様々な造形活動を続けて参りたいと思っています。



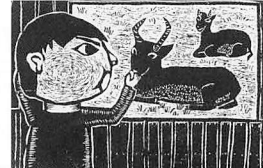
■「美術館あーと!こらぶ」

▼活動予定 和菓子でイチヨウ/テラコッタづくり講師:二科会彫刻部 会員・島田紘一呂先生/銀細工/黄色いイチヨウ巡り/イチヨウで染めよう/イチヨウで紙袋/山海サミット/安野光雅先生との交流会

この教室もまた、七戸町文化体験プログラム支援事業の一環として、子どもたちの豊かな感性を育もうと昨年度より開始しました。この教室で活動の中心に据えたのは「木版画」です。かつて南部地域は特に学校における版画教育がさかんでしたが、授業時間数の減少、美術教員が学校にいないなどの理由から版画指導は減少してしまっただけが現状です。「木版画制作の場を美術館に設けることで子どもたちに版画をつくる喜びや木版画独特の温かみを味わってほしい」というような思いから木版画をプログラムの中心としました。

今年度の活動も、全11回のうち5回を木版画とし、3〜4版程度の多色刷り木版画に挑戦します。

▼その他の活動予定 絵馬づくり/テラコッタづくり(講師:二科会彫刻部 会員・島田紘一呂先生)/ステンドグラスづくり/クリスマスリースづくり/雪像づくり



美術館日誌

【3月】

- ▼4日/美術館電気設備定期点検
- ▼9日/仙台市より平塚淳一様夫妻ご来館
- ▼14日/火曜サロン開催
- ▼16日/美術館スタッフ定例打合せ
- ▼17日/美術館主催バスツアー「おもり世界の蘭展①」開催
- ▼18日/七彩会油絵教室開催。平成18年当財団第1回理事會開催
- ▼19日/美術館主催バスツアー「おもり世界の蘭展②」開催
- ▼23日/美術館スタッフ定例打合せ
- ▼27日/スペイン民芸資料館ロビークーラー設置工事
- ▼30日/美術館スタッフ定例打合せ
- ▼31日/平成18年当財団第2回理事會及び第1回評議員會、役員懇親會を開催

【4月】

- ▼1日/七彩会油絵教室開催
- ▼5日/美術館電気設備定期点検
- ▼6日/美術館スタッフ定例打合せ
- ▼11日/蝦名青森県副知事ご来館。美術館スタッフ定例打合せ
- ▼14日/鷹山館長七戸町文化協会設

立總會へ出席

- ▼15日/七彩会油絵教室開催
- ▼18日/美術館スタッフ定例打合せ
- ▼22日迄/重油タンク定期点検
- ▼20日/「四季折々の花たち展」作品搬入。国土交通省青森河川国道事務所・富岡所長、長谷川ITS推進室長ご来館
- ▼21日/「四季折々の花たち展」展示作業。国土交通省青森河川国道事務所・佐藤副所長、折笠調査第二課長ご来館
- ▼22日/「四季折々の花たち展」開催
- ▼23日/「四季折々の花たち展」初日(5月4日迄)
- ▼25日/美術館スタッフ定例打合せ
- ▼29日/「コミュニケーション」打合せ
- ▼29日/「FM」折々の花たち展」電話取材に学芸員・大池出張

【5月】

- ▼2日/美術館スタッフ定例打合せ
- ▼5日/「藤氏、鷹山木版画調査のため」ご来館
- ▼5日/「蝦名青森県副知事」ご来館
- ▼7日/「茶道裏千家七戸会によるお呈茶のサーブ」鷹山館長東京出張(5月8日)
- ▼8日/「学芸員・大池仙台、東京出張
- ▼9日/美術館スタッフ定例打合せ
- ▼10日/「七彩会」油絵入門講座①開催。教育普及担当佐伯「県民力レツジ」會へ出席(上北地方教育事務所)。

入。6/3開催の「女性フォーラム」第1回打合せ

- ▼11日/青森放送(株)奈良相談役、葛西専務ご来館
- ▼12日/RAB青森放送番組生テレビへ鷹山館長、学芸員・大池「四季折々の花たち展」PRのため生出演。美術館電気設備定期点検
- ▼13日/友の会役員會、懇親會開催
- ▼14日/七戸町商工会女性部主催「七戸つじ祭り観光ツアー」69名様ご来館
- ▼15日/鷹山館長「上十三保健所管内食生活改善推進員連絡協議会研修會」にて講演(古牧温泉)。
- ▼16日/当財団平成17年度監査會
- ▼17日/七彩会「油絵入門講座②」開催
- ▼18日/鷹山館長青森出張
- ▼20日/平成18年当財団第3回理事會、第2回評議員會開催
- ▼21日/鷹山館長「村上善男先生を偲ぶ會」参列のため盛岡出張。弘南バス観光部主催バスツアー42名様ご来館
- ▼22日/鷹山館長RABラジオ「四季折々の花たち展」電話取材に出演
- ▼23日/美術館スタッフ定例打合せ
- ▼24日/七彩会「油絵入門講座③」開催。七戸町・遠野市児童交流事業ワークショップ打合せ
- ▼26日/津和野町立安野光雅美術館
- ▼27日/七彩会油絵教室開催
- ▼28日/友の会秋田研修旅行開催

▼29日/二科會会友・高橋美津子氏個展觀賞のため鷹山館長、学芸員大池青森出張。6/3開催の「女性フォーラム」打合せリハーサル

- ▼30日/美術館スタッフ定例打合せ
- ▼31日/七彩会「油絵入門講座④」開催

美術家・村上善男先生が逝去

盛岡市在住の美術家、村上善男(むらかみやよしお)氏が5月4日、不帰の人となられました。73歳でした。

村上氏は1933年、盛岡市の染色業の家に生まれ、岩手大学在学中の53年二科展に出展した「蛾」が初入選。55年の同展出品作「ヴァグースQ」が岡本太郎の目に留まり、ここから岡本との交流が始まります。82年弘前市に転居、弘前大学教授を歴任、同大名誉教授。2004年から盛岡市に戻り、制作活動を続けていらっしやいました。二科會所屬中は鷹山宇一の知遇を得、当館開館以来度々ご来館をいただき、新聞紙上等々へご寄稿くださったりと、何かとお心に掛けてくださいました。ここに、哀悼の誠を捧げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

幡山ってどんな人 (その二)

濱中 達男

幡山という画号は、八甲田山系の東端、八幡岳山麓の七戸町に生を受けたことから、号したようです。

明治九年、七戸町の瑞龍寺二十三世・鳥谷丹堂の二男として生れますが、僧門の規則のため中野家の二男又蔵として入籍されています。七戸小学校では、すでに絵の才能を発揮して、展覧会等に図画を出して県視学官から褒められたと、自ら記しております。また同級生には、後に書家となった親友・藤島百人がいました。明治十八年、又蔵が十才の時、父

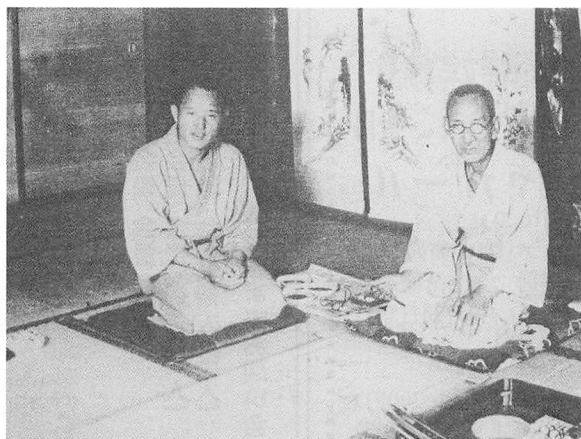


瑞龍寺山門(七戸町)。約120年前に建立された山門は、入母屋造りで重厚な風格を備えています。

・丹堂が死去し、その後、諸般の事情で明治二十三年、七戸から野辺地へ住居を移したのですが、野辺地小学校へ転校して間もない五月十七日、野辺地町大火があり小学校も消失してしまい、西光寺に仮校舎は出来たのですが、逆境に負けず、同級生で「十人会」を作り互いに支えあつたと云われています。この会のメンバーは、吉田泰治(日本画家・号小南)・霞東五郎(野辺地最初の写真家)・中村助次郎(美術に造詣が深く、後に教師)・野村治三郎(衆議院議員)・野村常吉(野村家二代目)・野坂重次郎(俳人・十二楼)・松本第次郎(学者・彦次郎の兄)・山根吉五郎(町議)達で、後に各分野で名を成す十五才の仲間でありました。

画家を夢見ていた又蔵には刺激的であつたに違いなく、特に吉田泰治とは、共に絵心があつたと思われ、貴重な出会いであつたと思われ、旧家に生まれた泰治は、幼年より向学心に燃え、父の勧めで医学を志し上京しますが、絵の道を諦め切れず、曲折を経て、南画の大家・児玉果亭の門を潜り、画業を決めています。旧南部藩が青森県の一部であつたことから、小南部という出身地の郷土意識からでしょうか、画号・小南と号して、水墨に独自の画風を創案、南画の伝統が表現する理想境を描きだすことに努めたと云われています。又蔵は翌明治二十四年、野辺地小学校を卒業し、商家を営んでいる兄を頼り函館へ渡り、兄の薦めで函館商業学校へ入学しました。兄は弟に実業家になることを望んでいました。

昭和14年、揮毫中の吉田小南(右)、野坂千代吉宅にて



「小南画帖」(長峰文男編、昭和58年4月1日尚武堂和島書店発行)より

たちの心意気が偲ばれます。この雑誌は、野辺地の松本彦次郎、五戸の江渡孝三郎(狄嶺)七戸の槇泰造など、旧南部領出身の青年学徒達が「北星聯合会」を組織して、文化運動をしていた頃の機関紙です。国の状況としては、日清戦争終戦から日露戦争開戦までの時期ですが「北星」創刊の辞に、興味深い文章がありますので、紹介しておきます。

以下「北星」の辞(原文のまま)

「わが東北の地たるや僻遠、徒らに山川原野の突兀(とっこつ)広漠たるものもたるも、未だ日本史上(ひとつ)の語るべき印跡を残すことなく、特に維新の際は扞(ま)げて賊名を帯びるに至り、爾来三十年ただ自ら扞屈(きょうくつ)し、文学・技術・軍事・政治・実業ことごとく皆云ふに足るものあらず、地勢の然らしむる所とは云へ、豈また、概して以つてすべからずや……、これをわが朴野なる東奥の青年に求めずして而して果して誰れに求むべきかを知らざる也、嗚呼、時勢最も人を作り人又時勢を作る、この気運に乗じこの気運を鞭撻して空しく時勢をして逸脱せしむることなく、以てその完全なる功果を得んことを勉むるは、豈に吾人東奥青年の一大責務にあらずとせんや……」

と、敢えて起草者を記名せず、互いに主張しあつて立志しているのです。

つづく

平成18年度 春の会「春」の企画から

平野政吉美術館と千秋美術館の旅 // & 美術講演会 //



▲ 7月13日開館する青森県立美術館。工藤学芸主査から、開館記念の「シャガール展」のほか、コレクションの概要と常設展示、今後の企画展示等について解説していただきました。

▼初の企画となった秋田市の美術館を訪れる研修旅行。平野政吉美術館の「近代の洋画と版画・フジタさん、行ってらっしゃい。留守は我がら！展」と市立千秋美術館の「小磯良平展」。日帰りのハードなスケジュールでしたが、どちらも大変素晴らしい企画展で、堪能しました。



平成18年度友の会「春」の企画事業として、5月28日に研修旅行を実施。13名の会員参加により秋田市の「平野政吉美術館」と「千秋美術館」を訪れました。
 また、6月10日通常総会終了後に、青森県立美術館の工藤健志学芸主査による「美術講演会」を開催しました。

青森県立美術館 開館記念展のご案内

シャガール

～『アシコ』と
 アメリカ亡命時代～

☆会期 7月13(木)
 ～9月24(日)

☆入館料

一般 1,500円
 (前売り1,200円)
 大・高 1,000円(800円)
 小・中 500円(400円)

☆開館時間 9時～18時
 (7/13は12:00から)

☆お問い合わせ先

青森県立美術館
 TEL017-783-5241

友の会会員登録の更新と 新規会員登録お誘いのお願い

会員の皆様には、友の会運営に多大なお力添えをいただき、誠に有難うございます。
 本年度も鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様方に芸術・文化に一層親しんでいただけるよう研修旅行、講演会などを企画し、微力ながらも地域文化に寄与していく所存でございます。

- 一般会員 会費(個人) 年度会費3千円
- 特別会員 会費(個人・法人) 年度会費1万円
- 賛助会員 会費(個人・法人) 年度会費2万円

■ 詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

平成18・19年度友の会 役員のご紹介

会長	盛田 駿造
副会長	奥山 雅子
理事(総務)	戸館 榮一
理事	石田 清剛
理事	小原 佳之
理事	川村 美奈子
理事	小向 慎
理事	下山 恭美子
理事	盛田 恵津子
理事	山本 洋一
監事	工藤 喜代子
監事	附田 豊寿

“睡蓮”に感動
 素晴らしい!!
オランジュリー美術館

★5月18日、リニエールしたパリのオランジュリー美術館を訪れることができました。美術館天井のスクリーンを透したあふれるばかりの自然の光が注ぐ“睡蓮”の展示室。光の強弱で様々な表情を見せ、本物の睡蓮池の前に立っている感覚になり、時のたつのを忘れるほどでした。来年の海外研修旅行ではジベルニーのモネのアトリエとオランジュリー美術館を訪ねます。楽しみます。
 (会員 Y.T.)

編集後記

★サッカー・ワールドカップが開催されました。テレビの前で一喜一憂し、特に日本の試合の翌日は肩が張ります。
 ★友の会役員が新体制になりました。会員の皆様には一層のご支援とご協力をお願いいたします。
 ★梅雨入りし、もやもやした天气が続いています。昨年は猛暑。今年の夏はどうでしょうか。
 (E.T.)